

生活新聞

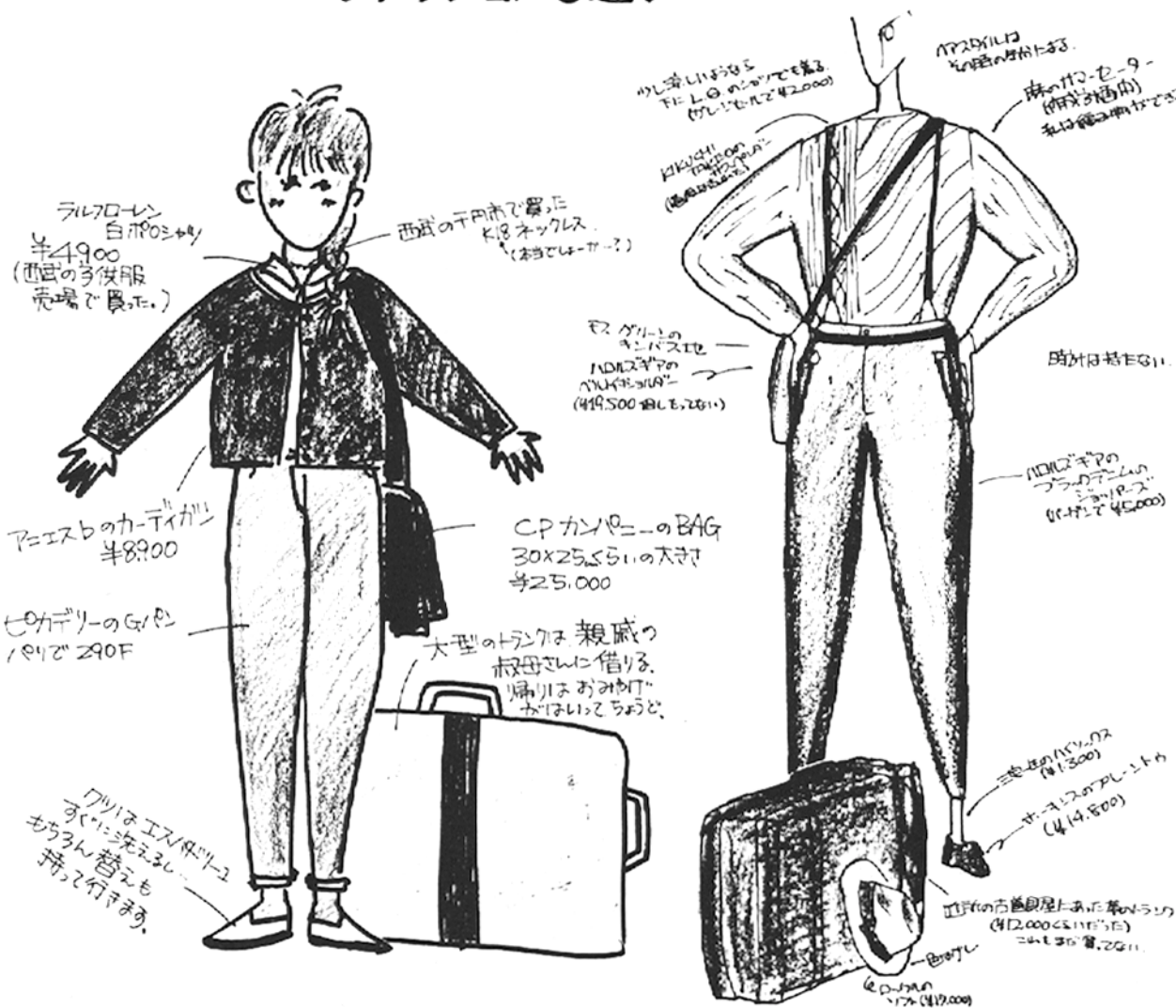
Hokkaido Institute of Life & Living

No. 137

博報堂生活総合研究所

ツー 通リスト

旅慣れた人は、
ファッションも違う



ファッションは 通リストのバロメーター

◆余暇願望の高まり

今や、世を挙げての「余暇ブーム」。総理府の「国民生活に関する世論調査」(87年)でも、今後、生活の力点をどこにおきたいかという問いに対して、「レジャー・余暇生活」と答える人が32%と、一番多い結果になっている。

とりわけ注目されているのが旅行であろう。昨年は海外旅行者数が843万人と史上最高を記録したのをはじめ、国内旅行も伸びが鈍くなっているとはいえ、人々の旅行願望は強まるばかりである。

◆ウエストポーチの意味するもの

しかし、これだけ旅行が取り上げられ、ブームの渦中にあるのに、未だに「スマートでない」という印象が強い。それは、海外有名ブランドで買ったり、団体旅行では、みんなが添乗員の後ろについて、ゾロゾロ歩くといった行為はもちろんのことだが、その基本となる旅行に対する気構えに、妙な力み、もしくは固定概念が働いているからではないだろうか。

たとえば、5月某日、成田空港にて。「おやじ、ロスに行くのにウエストポーチかよ！」の声に驚いて振

り向くと、50歳ぐらいのサラリーマン男性が、ネクタイなしの背広姿で、買ったばかりのウエストポーチを腰に巻きつけていた。

ウエストポーチは、時と場所を選べばオシャレだし有効だが、間違えると違和感をもたらす。日常生活では、背広姿に合わせるようなことは決してしないのに、旅行となるとオールマイティとされ、即、登場してしまう。つまり、旅行の二文字にかかると、日常の常識やTPOが、かなり無視されてしまうのである。

確かに旅行といった非日常は、日常では不可能なことが可能になる。だから心がワクワク、ドキドキするのだ。しかし、旅行することが大袈裟で、珍しいものでなくなりつつある今、非日常だからといって、日常のTPOを無視するわけにはいかない。日常生活を引きずることと、TPOを無視することは違うのである。














◆ファッションで分かる通リスト

余暇の先進国として知られるフランスの地中海クラブ広報担当さんが指摘するように、旅行は「時間×ファッション×空間のトータルで考えることが大切」になってきている。マナーは外さない。けれど日常の束縛がない分だけ自由にしていいという大原則は、慣れていない人にとってはなかなかの難題である。しかし、そうした環境に通じ、旅行慣れた人(彼らを通リストと名付けてみた)は、昼間はカジュアル、夜はビシッと決めるといったように、普通なら束縛と感じられるTPOでさえ、楽しむ材料にすることができる。

世界のどこにでも行けるようになった今、大切なのは、どこに行くかではなく、どれだけ通リストでいられるかがポイントになるのではないだろうか。

様々な旅行場面を観察した結果、通リスト度合いが一番よく表れているのがファッションではないかという仮説に至った。以降、通リストぶりをご覧いただきたい。

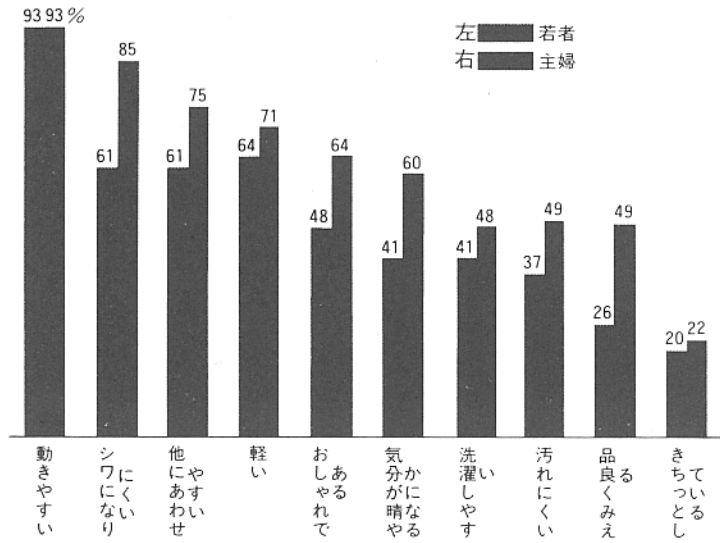
20年「旅行」史

	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89							
海外旅行者(日本人)万人	66	96	139	229	234	247	285	315	353	404	391	401	409	423	466	495	552	683	843								
乗用車世帯保有率(%)	22.1	26.5	32.2	37.7	40.0	41.8	45.1	49.0	52.8	53.4	56.0	58.1	59.3	61.2	63.4	65.8	66.7	68.6									
旅行を巡る環境	70 日本万国博覧会開催					75 山陽新幹線開業 75 沖縄国際海洋博覧会開催			78 新東京外貨持	国際空港(成田空港)開業 ち出し枠撤廃		81 神戸ポートアイランド博覧会開催	82 東北新幹線、上越新幹線営業開始 83 東京ディズニーランド開業			85 国際科学技術博覧会開催 85 関越自動車道全通	87 JR8社設立 87 総合保養地域整備法(リゾート法)設定	88 青函トンネル、瀬戸大橋開通		89 官公庁土曜閉庁							
旅行の潮流	国鉄ディスカバージャパンキャンペーン出現	マイカー旅行の増大	アンノン族				離島、小京都ブーム	アウトドア志向			卒業海外旅行ブーム		温泉ブーム	グルメ旅行	クアハウス		アーバンリゾート	円高ショッピング		リゾート開発	オーベルジュ						
旅行のトピックス(雑誌記事より)		71 女ひとり海外アイデア旅行	72 「やけくそ」レジャー	73 週休2日時代		74 物価高を吹き飛ばす「ホームレジャー」	75 不況ものは……海外旅行ブーム	76 OLの観光地荒し	77 ヴィトンの店の前に日本女性の列	77 チビッコ海外旅行	78 「サロンバックナラJ	79 リゾートホテルディナー	79 「お座敷列車」	80 秘湯・秘境の旅	80 日本人のレジャーは「後進国」なみ	80 曲がり角にきた! 海外のパッケージツアー	81 フルムーンバス	82 「省エネ」ツアー	83 出世払いのリクルートツアー	83 ナイスミディーバス	83 フォーマルウェア着用のハワイツアー	84 お土産を買わない、観光バスに乗らない旅	85 「お見合い風呂」で恋人さがし	86 円高成り金ギャル	87 格安航空チケットの買いかた	88 王侯貴族の買い出しツアー	89 なにもしない贅沢QE2にのる
旅行のファッション																											
	バック名入りバッグは一種のステイタス	海でも電車の中でも、肩だしレック	猫も杓子もサファリの風	特なサロベツ	着膨れダウン	ウエストポーチは西海岸の象徴	スタジャン	背広にウエストポーチの妙	オバサンいきなりスキーパンツ	リゾート気分を盛り上げるボーダー柄	いきなりゴルフウェア																

ツー 通リスト 3 大原則

- はきかえの靴を持っていく
- なにもしない時間がある(創造的な思索、精神の休息、一番大切な時)
- 温泉饅頭、マカデミアン・ナッツは買わない

●旅行時の服装選びのポイント



●旅行時に「することしたいこと」

	若者 経験 今後 (%)	主婦 経験 今後 (%)
●多少高くても、いいホテル・旅館に泊まる	55 → 68	59 → 75
●安く、土地柄を感じるののできるホテル・旅館に泊まる	69 → 56	55 → 50
●知らない人(同性)と知り合いになり、楽しくすごす	49 → 63	37 → 43
●知らない人(異性)と知り合いになり、恋を期待する	19 → 47	7 → 11
●豪華な料理を食べる	56 → 66	54 → 61
●朝食はルームサービスを頼み・ベッドで食べる	10 → 43	9 → 27
●昼間からビールなどアルコールを楽しむ	25 → 27	21 → 20
●普段よりカジュアルな恰好をする	70 → 46	71 → 46
●夕食時にはドレスアップ、正装(ネクタイ着用)をする	20 → 54	33 → 63
●サングラスをする	27 → 25	47 → 35
●夜はディスコやカジノのような場所で楽しむ	23 → 48	18 → 36
●夜は部屋で読書をしたり、テレビなどをみてくつろぐ	49 → 29	49 → 26
●のんびり、ゆっくり、何もしないで過ごす	36 → 48	53 → 50
●普段はしないスポーツなどに挑戦する	38 → 70	17 → 29
●その土地にある美術館などを巡る	57 → 56	76 → 66
●あちこちの名所を訪れる	83 → 60	88 → 64
●その土地の名産品を買う	76 → 53	82 → 51
●その土地で安いものを買う(特に海外などで)	51 → 63	48 → 65
●下着でもランドリーサービスを利用して、洗濯しない	7 → 19	4 → 28
●下着などを洗うために洗剤をもっていく	52 → 26	42 → 23
●チェックアウト時に、荷物はボーイやポーターに運んでもらう	32 → 31	20 → 37
●価格などを気にしないで、普段よりお金を浪費する	46 → 43	36 → 53
●絵を画いたり、文章を書くなど創作的なことをする	13 → 41	14 → 40
●目覚まし時計をかけずに、好きなだけ寝ている	26 → 35	22 → 40
●ガイドや地図を頼りにせず、歩き回る	34 → 55	21 → 40
●ガイドブックに出ている有名店で買い物をする	40 → 37	38 → 38
●ガイドブックに出ている飲食店に食事に行く	52 → 43	58 → 50

●経験は、それぞれの項目の行動をしたことがある人の割合(%)、今後は、経験の有無にかかわらず、してみたいと回答した人の割合。対象は、若者が首都圏・阪神圏の大学生を中心とした18~23歳の女性123人・男性53人、主婦は40代・50代の主婦92人対象。1989年5月調査。

通リストたちは、「動きやすい」などポイントをおさえながら、独自に工夫を凝らして服装を選び始めている。場所や時間を考えたドレス、同行者とのコーディネート、下着への気配り、服装での自己表現など様々な方向からファッションを考える。勿論、こういった工夫の背景には、旅行の仕方が変わってきたということがある。格安な宿泊施設に泊まって、名所を訪ねまわり、一日中ラフな服装で過ごすという旅行パターンはもう古い。

●ファッションで心がけること

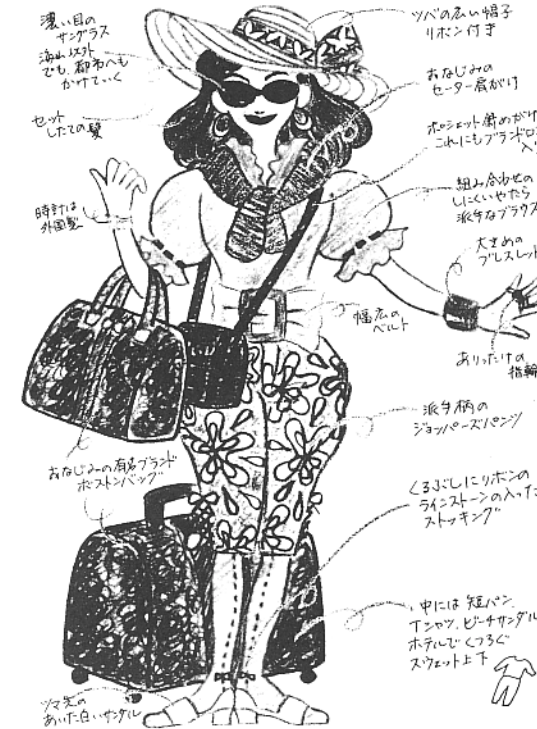
- 家族や同行者で統一された雰囲気(雰囲気)の服装をしたい。
- 毎年行く友人との旅行は写真に残るので、前回と違う服を着るようにしている。
- 帽子をさりげなく着こなしている人に憧れる。
- 色彩的に自然(色がとびだしていない)。
- 日中は動きやすく、夜はそれなりにキチッと、少なくとも2種類は持参する。
- 座席などに座っている時間が長いので、シワになりやすい服装。後ろ姿をいつも気にしている。
- 普段できない思い切った遊び心を実行。
- 小物をいろいろ持って、組み合わせを楽しむ。サンバイザーとかサングラスとか。
- 背広にネクタイ、ショーツ(短パン)は、人のことでも気になる。
- 主人と色は必ず合わせる。
- 同行のメンバーに男性が入っている場合、浴衣にかかわるワンピースなどを持つ。
- 山や海など自然の多い所へは、年より20歳は若く見える服装。

- クツは履きやすいベタンゴツとハイヒールの2つを用意する。荷物が多くなるのは難点だが、スーツで似合わない靴を履いているのは、あまりに恥ずかしい。
- 下着だけはキチンと。特に旅行していると「いつ死ぬかもしれない」という確率が高くなると思うから。
- 前もって、全日程のコーディネートを考える。
- いろいろ知らない人に会えるので、自分のキャラクターが服装に出ていると、自分に似た人が集まってきておもしろい。
- 現地の人から浮かないように心がけている。

- お金をあまり持っていないような雰囲気。
- 日常の自分を、非日常の環境におくため、普段通りの格好をする。
- 意味不明の英語プリントのシャツやアーミー服は、海外では避ける。
- ウエストポーチはやめてほしい。ゴルフウェアを取り入れるのもマズイ。気取りがみえみえなのは反面教師として我が振りをしてしまう。でも、少し位は日常の服は着ない方がいい。
- ケバくならない。ヤンキーにならない。
- 帰ってくるやたら派手な服装になっていた、まだ向こうに居る気分ではいるのかっこ悪い。
- 冬のサングラス、温泉町のダブルのスーツはヤメテ。

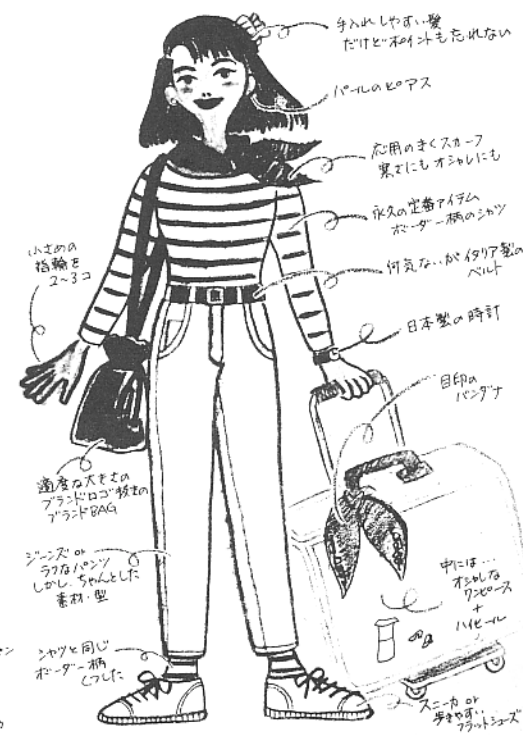
発散型ファッション 単なる ツーリスト

日常のストレスを解消しようと、一気に気分転換を計るため、派手になりがち。旅行から帰ってくると、ドツと疲れる人が多い。



収束型ファッション 通リスト

いつもの自分のままで旅行するため、無理なく楽しむことができ、いろいろなことも吸収できる。疲れも少ない。



通リストともなると、単に旅行にいくだけでは満足できない。どう楽しんだかが問題だ。楽しむためのファッションを考えるわけだ。夜はドレスアップしてディスコやカジノで騒ぎ、翌日にはジーンズで木陰の昼寝。通リストは遊ぶことに罪悪感を感じたり、十分に遊ばないことに罪悪感を感じたりすることはない。解放されているわけだ。このような通リストになるためには、次の3原則を守ることが基本である。

- はきかえの靴を持っていく
- 靴にもTPOの気配りを。
- 温泉饅頭、マカデミアン・ナッツは買わない
- 名所や名物には目の色をかえない。
- なにもしない時間がある
- 遊ばなければという呪縛からの解放。

旅行にいったという事だけで満足できた時代のファッションがこれである。どう旅行を楽しむかではなく、行くことが目的、行くという行為に非日常性を求めるために、派手にキバツてしまうのはしょうがないのかもしれない。「私は今、非日常よ」と思い込むために、ラメ入りの光りモノやブランド品を身につける。このように昼はキバツていても、夜のファッションになると、いきなり気が抜けてスウェットの上下になってしまうというケースが多かったりする。しかし、前頁左下の図表を見ていただきたい。「夕食時にはドレスアップ・正装をする」ことについては、経験者の割合に対して今後の希望者が30%も高くなっている。若者も主婦も同じ傾向だ。通リストは確実に増えつつある。

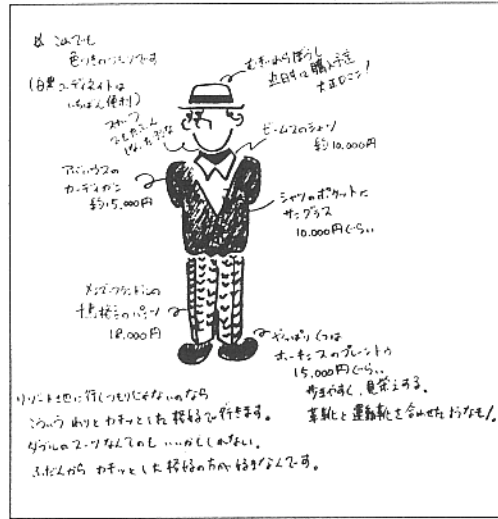
ボクの、ワタシの、通リストファッ

〈ハワイ編〉男性

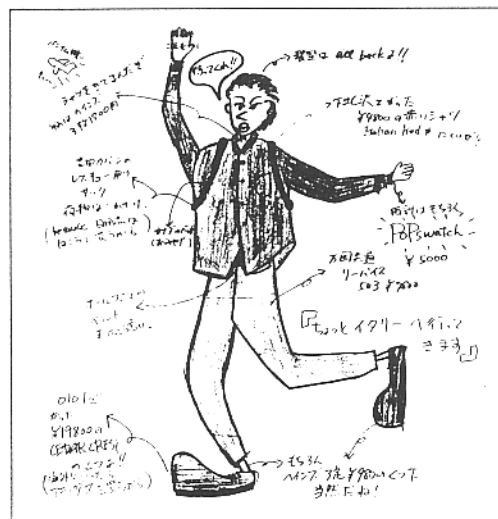


「いかにも」の格好は恥ずかしい。南の島へだつて普段の格好をしていく。でも、夜のディスコのためにスーツや時計まで用意していくのが通ってみんなよ。

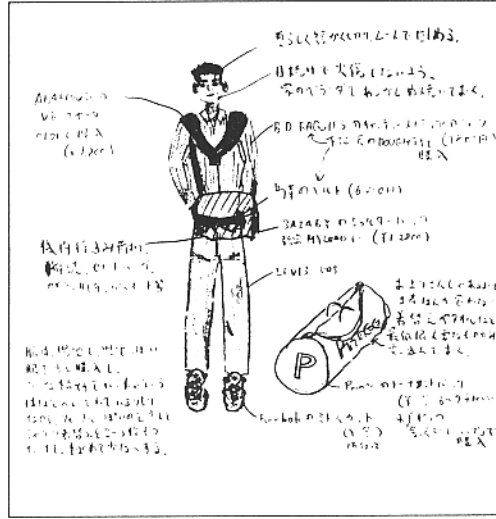
〈ヨーロッパ編〉男性



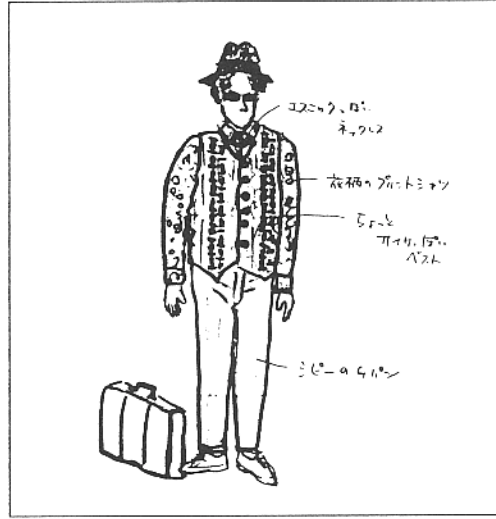
歴史ある都市に行くにはそれなりの心構えが必要。服装で人を判断するところには、カチツとした格好、見栄える靴でキメルのが常套手段ってみんなよ。



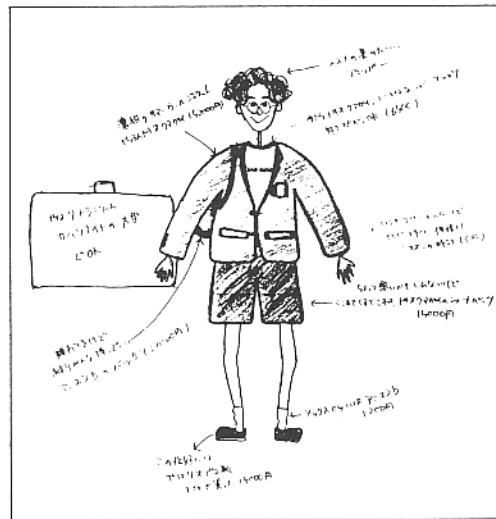
現地調達も通リストの得意技。服だけでなく、日用品だってOK。だから気持ちも近所感覚になって、あやうく飛行機を逃しそつになるのが玉にキズ!



通リストはあらかじめ肌を焼いておく。お土産なんて買わないから大きなバッグも必要ない。服も現地でそれっぽいものを買うのが、マル。



「ちよっと、コンサートに行ってきます」のノリ。旅行だからって、気張りもしないし、力も抜かない。どこへ行っても、「いつもの自分です」。



全身ブランド小僧といわれてもへっちゃら。欧州でも有名なデザイナーの服なら見劣りしないし、堂々としていられる。若さの証明、ヒザ小僧を見よ!

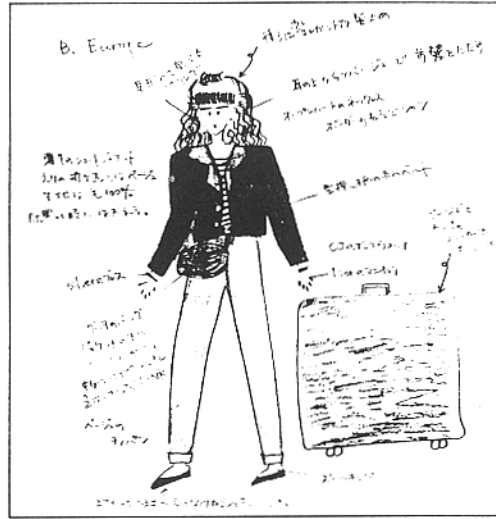
ション

〈ハワイ編〉女性

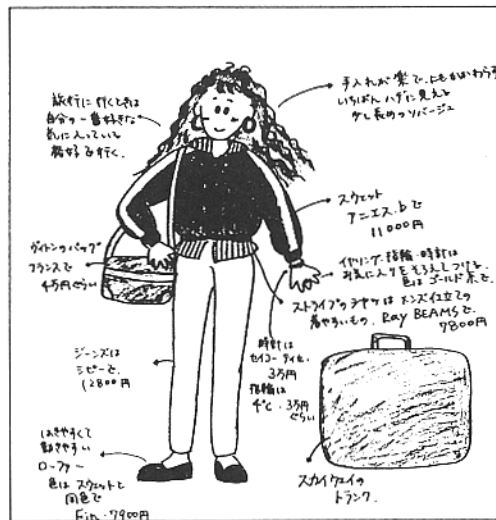


雑誌「25ans」にできそうなアダルトなリゾートスタイル。アクセサリーで派手目を出すが、バッグはVマークのないヴィトンとは、ニクイ。

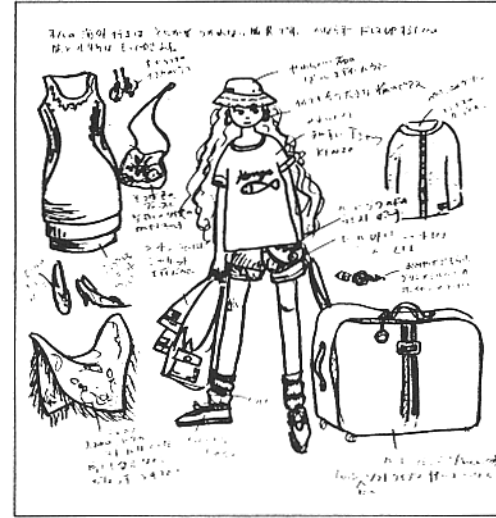
〈ヨーロッパ編〉女性



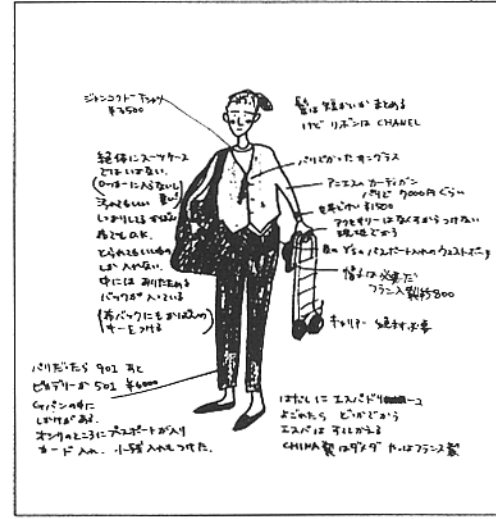
パンプスを履いて、おしゃれっぽく決めたらマニキュアも忘れない。でもスニーカーの中にはジッパーとスニーカーのカジュアル格好も準備万端。



感性時代の通リストは、自分の好みを優先させる。ヘアースタイルも機能と気分を両方満足させると、こうなる。あとは全体の色調を合わせればE気持。



「これぞ通リスト」の代表格。一見、すぐクラブを装うが、バッグの中にはドレスアップ用品が一式揃っている。このメリハリが通っぽさの秘訣。



ウエストポーチもこだわるとファッショングッズに。スニーカーを引っ張るなんてタサイ。足元はエスパドリュー、手にはキャリアーがさりげなく決まる。



フェミニンっぽさが、彼女らしさ。だけど、つばの小さい帽子、低いヒール、まとめやすいソバージュなど、旅行対策も「ぬかりはないわヨ」。

通リストになれば期待だって違う

旅行に期待する非日常的な出来事を、思い付くままに自由に記述してもらったところ、ふたつのことが目を引いた。ひとつは、若者と主婦で旅行の範ちゅうが随分異なっているという点である。漠然と旅行と聞いた場合、若者（大学生）はみんな海外旅行を想定して回答する。ところが主婦はほとんどが国内旅行（それも温泉旅行）を考えて答えているのだ。

もうひとつは、若者なら若者、主婦なら主婦で意見が似ている点だ。つまり、同じようなことを書いてくることが多いというわけである。若者では「**人との出会い**」が最も多く挙げた。人付き合いが下手、あるいは仲間うちだけで群れていると

言われる大学生の意外な一面ということができただろう。女子大生では123人中58人が、男子大学生では53人中23人が出会いを期待している。「すてきな異性との出会い・恋」と同じ位に、「都会にはない素朴な人々とのふれあい」を期待する若者が多い。素朴さとの出会いは、都会の若者にとっては非日常的な出来事である。

主婦は「家事からの解放」が多い。92人中61人までが、家事をしなくていいといった内容を記述した。主婦にとっては「主婦でいる」ことが日常であり、「主婦でなくなること」が旅行に期待する非日常的な出来事である。

こんなことを期待する人もいる

女子大生

- ・恥のかきすて。ストリップを見に行く。
- ・イブニングやチャイナドレスを着る。カジノやゲームなど賭け事などをする。
- ・やっぱりちょっぴり刺激的なアバンチュールかなあ。スリリングでハラハラドキドキするような Night Life かなあ。

主婦

- ・ホテルの部屋に閉じこもって、他人と会わずにすむ。
- ・主人と同じに行動、同じように感動すること。若い時になかった幸福を感じます。
- ・若き日にもどれそう。恋ができるかも、ロマンティストになれる。
- ・会いたい昔の恋人と、思い出の地で再会。

男子大学生

- ・ほとんど旅行者のやってこないただとんとと青い海だけがあるなんていう街にぶらりと入る。天気がよく、風が心地よかったので、大きな木の下で星を仰ぎながらグーグー。朝あたりがさわがしいので目が覚めると、おいらの周りに人だかり。そのうちの気のよさそうなじっちゃん「死んどるかと思ったぞな」かなんか言う。まあ、これがきっかけでこのじっちゃんの家にいそうろう。毎日海に出たり(漁を手伝う)、まきをわったり、畑を手伝ったり…。こんなことをしながら1ヵ月か2ヵ月すぞす。「ふるさと」をもたないおれは、旅行をしているうちに、それに近いものを手に入れてしまうのだ。
- ・事故(自分に直接かかわらずに巻き込まれる)。
- ・のんびり。
- ・知っている人が全くなくなるわけですから、犯罪なんかを犯して、冒険心を高めてみたいなあ。なんて…。

特報「生活者とテクノロジー」ができました。

グループインタビューでの意見を中心に、生活者のテクノロジーに関する声満載です。